

## ◆ 葛飾都税事務所長賞 ◆

「身近な税金」

学校法人修徳学園修徳中学校 2年 田中 歩佳

異常気象の中、夏休み中毎日のように部活で汗を流し、乾いたのどをうるおすために水筒の中の飲み物だけでは足りず、少ないお小遣いの中から飲み物を購入しようとした時に小銭がわずか十円足りない時がありました。

「消費税の分が無ければ足りたのに…」と思いましたが、同時に、消費税は何のために徴収されるのかと疑問に感じました。

まずはじめに、消費税とは商品を買ったりサービスを受けたりしたときに、本体の値段とは別に支払うお金であり、消費一般に広く公平に負担を求める間接税のことです。消費税が八パーセントから十パーセントに引き上げられましたが、それは安定的な社会保障の財源を確保するための手段であり、景気の変化に左右されにくく税収が安定していることや、特定の人に負担が集中しないことから中立的な税であることが分かります。

集められた税金はどこに行くのか、何に使われているのか疑問に思ったため、調べてみることにしました。すると公園の整備などの公共のために使われます。ほかにも道路の整備、警察や消防の仕事、お年寄りや障害がある人の支援、義務教育にかかる費用に使われているということがわかりました。今年の初めに石川県で大きな地震がありました。現在も普段通りの生活を送ることが困難な人たちへ募金が行われていますが、地震・津波・台風などの災害の支援としても税金が使われています。こうした税金の使い道については、議会で話し合っただけで決められています。もしも税金が無かったら毎日人や車が行き来する道路が傷んだ際に修理するお金が無くなり、自分たちで交通料を多く払わなければいけなくなってしまうたり、義務教育中に子供たちがよりよい環境で教育を受けられなくなり、その分の費用を家族など一部の人で負担しなければならないため、負担が重くなってしまいます。

このように、税金は自分たち中学生にとっても身近なものであり、これからも社会の一員として払っていくものです。現在の日本では生活が困難な人も少なくありません。そんな人たちの力に少しでもなれたら良いなと思い、税金を払うことが苦ではなくなりました。税金の中には消費税だけでなく働いて稼いだお金にかかる所得税や自動車の排気量に応じて課税される自動車税などさまざまな税がありますが、特に身近な税が消費税であり、買い物をするときに当たり前のように払っているものでこれから大人になっていくにつれて消費税だけでなく色々な税金を払っていくことになると思いますが、日本中の人々がより暮らしやすい生活になるように、自分に矢印を向けて少しでも社会に貢献できるような大人になりたいです。